

火山噴火予知連絡会（有珠山総合観測班）

議 事 録

現地の緊迫した事態に鑑み、昭和52年8月8日の緊急幹事会の見解に基づき、連絡会長の了解を得て連絡会の前進基地として、観測体制の協力調整並びに火山活動についての総合判断を行うため、上記の会合を現地で開催した。

日 時：昭和52年8月13日 9時～11時

場 所：壮瞥町役場

出席者：下鶴、横山、渡辺

勝井（北大）、長谷川（東北大）、清野（札管）（以上3氏臨時委員）

オブザーバー：田治米、太田（以上北大）

1. 名称を火山噴火予知連絡会有珠山総合観測班とし、会長代理を下鶴、スポークスマンを横山各委員とする。

2. 臨時委員として勝井、長谷川、清野各氏を委嘱する。

3. 各大学および気象庁の現在の観測体制等

北 大：9点、うち5点はテレメータにより、入江保育所内に集中

気象庁：3点（うち札管1）

東 大：1点

東北大：1点（トリバタイト）

以上14点を展開、観測開始。

なお、震源決定のため12時～13時の1時間についてPSを読み易くするため、早回しなどの方法を考える。

4. 火山活動の状況

北大から地震・噴火活動、火口変化および噴出物の分布、気象庁から地震および噴火活動のほか、火山情報発表状況を説明した。

5. 有珠山の噴火についての統一見解

有珠山は、8月7日の第1回目の噴火以降、8月8日から9日にかけて、4回の顕著な噴火を含めて表面活動が続いている。

火山性地震の活動は8月8日夕刻の噴火以降、一時減少したが再び活発となり、8月13日現在も有感地震を含めて多数の火山性地震が発生している。

現在の地震活動の状況から見て、地下におけるマグマの動きは活発であり、再び噴火の可能性があるので、なお十分の警戒が必要である。

北大その他の大学（東北大、東大）および気象庁は協力して有珠山をとりかこんで、計14地点に各種地震計を配置し、火山活動の推移を監視しつつある。

今後の火山活動の推移をより明確に把握するためには、現在の観測項目の他に地殻変動観測、航空機による隔測等を強化する必要がある。

6. その他

京大も現地観測を考慮中

国土地理院は水準測量をする予定

航空機による地熱等の隔測が強調された。

第2回火山噴火予知連絡会（有珠山総合観測班）

議 事 録

日 時：昭和52年8月20日 9時～10時

場 所：壮瞥町役場

出席者：下鶴（会長代理、東大）、横山（北大）、
勝井（北大）、長谷川（東北大）、清野（札管）（以上3名臨時委員）
岩井（連絡会庶務）

有珠山総合観測班の各機関は現在の有珠山火山活動について、下記のような報告を行い、有珠山の噴火についての統一見解をまとめた。

1. 報告概要

(1) 地震活動

ア 地震活動は依然として活発で、多数の地震は有珠山頂外輪内の浅い部分に発生している。

横山（北大）

イ 17日以降やや強い地震が観測されており、18日21時27分に発生した地震のマグニチュードは4弱である。

下鶴（東大）、長谷川（東北大）、清野（札管）

(2) 地形変動

外輪内の小有珠と大有珠の間に多数の断層および割れ目が発達し、かつ、その中央部に隆起の兆候が見られる。

勝井（北大）

以上のことから粘性の高いマグマが比較的浅い所まで上昇しているものと判断され、今後のマグマの活動について十分警戒していく必要があるという結論に達した。

2. 有珠山の噴火についての統一見解

有珠山は8月7日の噴火開始以来、8月13日夜半まで噴火を断続していたが、その後現在まで、顕著な噴火は観測されていない。しかし、地震活動は依然として活発であり、有感地震を含む多数の地震は、有珠山頂外輪山内1～2 kmの浅い部分に発生している。

一方、数度にわたる航空機による外輪山内の写真を判読すると、小有珠と大有珠の間に、多数の割れ目が発達しており、かつ、その中央部に隆起の兆候が見られる。このような地形変化と17日以降やや強い地震が観測されていることを考慮すると、粘性の高いマグマが比較的浅い所まで上昇していると判断される。近く開始される空中赤外撮像と、地形変動測定の結果を参照しつつ、今後のマグマの活動について、十分警戒していく必要がある。

なお、今後とも、震度Ⅲ程度の地震は起る見込みであり、かつ、集中豪雨による泥流発生の可能性があるので、注意を要する。

3. その他

国土地理院が8月20日から測量を開始する。

第1回火山噴火予知連絡会（有珠山総合観測班）議事録を承認。

第3回火山噴火予知連絡会（有珠山総合観測班）

議 事 録

日 時：昭和52年9月8日 9時～10時

場 所：壮瞥町役場

出席者：横山、勝井、堀内（東北大）、清野

連絡会庶務（吉留）

有珠山総合観測班の各機関は、国土地理院の空中写真測量（応急図化）等の資料を含めて、有珠山の火山活動について報告と検討を行い、統一見解を発表した。

1. 報告並びに検討

(1) 地震活動

- ア 震央分布について（横山委員）
- イ 震度Ⅰ以上の地震発生数について（東大震研）
- ウ 日別地震回数と最大振幅について（清野臨時委員）
- エ 振幅の2乗の積算値について（堀内臨時委員代理）
- オ 加速度の各日のベストテンの累積和（東大震研）

(2) 地殻変動

- ア 有珠山火口原における地殻変動について（勝井臨時委員）
- イ おがり山の隆起について（横山委員）

以上のことから今回の活動は、その経過からみてやや長期化する可能性があり、今後も各種観測を継続し、マグマの挙動を警戒していく必要があるという結論に達した。

2. 有珠山の火山活動についての統一見解

有珠山は8月14日以後噴火こそしていないが、火口原における隆起は著しく、8月23日の国土地理院の空中写真測量（応急図化）の結果によれば、隆起は小有珠東側で最大約50mに達している。火口原の地殻変動は現在もさらに進行しており、その影響は有珠山北東麓にもおよんでいる。

地震回数はやや減少したものの、マグニチュード4前後の地震がなお発生している。このような活発な地震エネルギー放出および顕著な地殻変動は有珠山の火山活動の特徴である。これは粘性の高いマグマの上昇によるものと考えられるが、8月23日の北大による空中赤外映像その他の資料によれば、火口原の隆起地帯には未だ熱異常は現われていない。

有珠山の噴火史を参照すれば、今回の活動はその経過からみてやや長期化する可能性があり、今後も各種観測を継続し、マグマの挙動を警戒していく必要がある。

3. 第2回火山噴火予知連絡会（有珠山総合観測班）議事録を承認。